その熱い眼差しを

研修医募集案内

● 小田急江ノ島線　長後駅　徒歩７分

〒252-0802 藤沢市高倉 2345
0466-44-1451（代表）

2023.04改定

一般財団法人同友会
藤沢湘南台病院
FUJISAWA SHOUNANDAI HOSPITAL

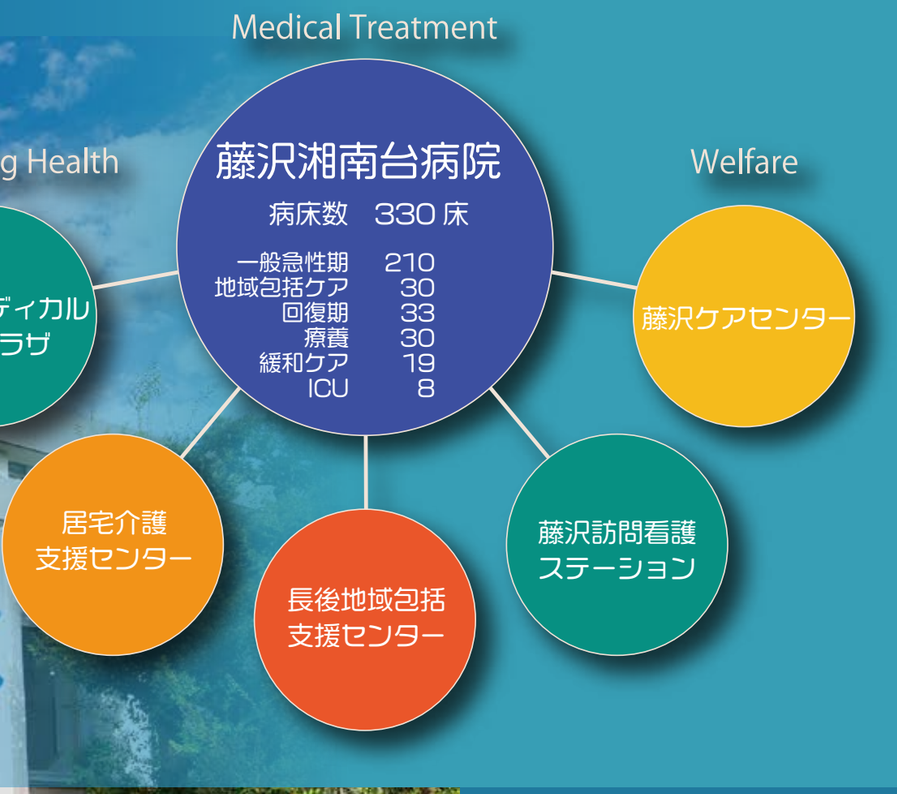
我この地をトして病院施設をつくる
もとより私利私欲のためにあらず
これをもっていささかなりとも
世の人のためにつくす

初代理事長　鈴木文蔵
病院設立の主旨

神奈川県藤沢市北部に位置しており、藤沢市だけでなく横浜市、大和市、綾瀬市茅ヶ崎市それぞれの一部を包括して医療・福祉・健康管理を担っております。
少子高齢化が進む中、地域の課題は山積しております。
わたくしたちは、地域の方が安心して暮らせるための地域包括ケアシステムの推進に対する役割をしっかり担えるよう、断らない救急医療、在宅医療の支援体制構築、藤沢の北部を守る災害時医療などで社会に貢献してゆくことに力を注ぎます。
また、先進医療分野ではAI技術を活用した内視鏡画像診断研究を東京大学と連携して行っております。令和元年5月には手術支援ロボットを導入し泌尿器科、外科を中心に低侵襲で正確性の高い手術を目指しております。

藤沢湘南台病院のスタートとほぼ同時に、老人保健法による各方面の要望に応え、神奈川県藤沢市では第1号となる老人保健施設「藤沢ケアセンター」および在宅介護支援センターを開設しました。さらに、これまでの医療施設に加え、平成8年に「藤沢訪問看護ステーション」、平成11年に「居宅介護支援センター」を開設。地域の医療・保健・福祉サービス機関と連携をとりつつ、きめ細かな医療に取り組んでいます。

このように、一般財団法人同友会は、「藤沢湘南台病院」[Medical Treatment]を中心に、健康増進を担う「ライフメディカル健診プラザ」[Promoting Health]、老人包括医療を支える「藤沢ケアセンター」「居宅介護支援センター」「藤沢訪問看護ステーション」[Welfare]から構成され、みなさまの健康をトータルにサポートしていきます。



藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立されて以来、90余年を迎えました。
無医村対策として創設され、昭和13年には伝染病の猛威を防ぐための隔離病棟を増設、戦中戦後の社会問題となった結核に対しては結核隔離病棟を併設するなど、常に地域社会の要望を重視し、時代の要求に応えてきました。

総院長　鈴木 紳一郎

志を高く持つ臨床研修医に教育指導することは”医師”という仕事がより社会に認知されるだけでなく社会の貢献にもつながるのである。
教育は、受ける医師もそれを行う側も大変なことである。ましては一日にして教育は成りえない。我々は屋根瓦方式・少人数プログラムで質の高い医師を育てることを目標にしている。
これに日本中の志の高い研修医が参加してくれることを強く望む。

院長　熊切 寛

AELIC

大腸肛門病AELICセンター

A Anal　肛門疾患の診断治療、手術

E Endoscopic　内視鏡検査・処置

L Laparoscopic surgery　腹腔鏡下手術

I IBD(Inflammatory Bowel Disease)潰瘍性大腸炎、クローン病など炎症性腸疾患

C Chemotherapy　大腸がん抗がん剤治療

椅子、車を多用する生活様式の中や食生活の変化の影響で大腸肛門病は今や現代病の一つとなっています。増え続ける大腸がんを予防していく一方、5人に4人が悩まされている痔疾患を確実に、より自然に近い形で治療していきたい、また潰瘍性大腸炎やクローン病という炎症性腸疾患(IBD)を内科的、外科的治療を行いより良い生活を送ってほしい、そんな思いで大腸肛門病の専門センター、AELIC(エイリック)センターを開設しています。

1.Anal
痔核、痔瘻、裂肛などに対して外来診療から日帰り手術、根本手術、括約筋温存などなど、患者さまの一生に渡って不都合が起きることがなく根治できるよう診療、診察を行っています。
直腸脱に関しては、三輪ガントティールッシュ法(絞り込み)、アルテマイヤー法(経直腸的切除術)、腹腔鏡下直腸固定手術など様々な方法を用いて治療を積極的に行っています。
最近は、アルテマイヤー法が増えておりますが、年齢、高齢者、認知症により他院で断られた患者さまでも最後の砦として治療を積極的に行っています。いずれにしても肛門疾患、直腸脱などに対して、白血病、HIV、肝硬変など色々な病態をお持ちの方でも安心してご相談ください。
また、最近は排便機能障害に対して専門的に取り扱うようにしており、便失禁などでお悩みの方のご相談にのっております。仙骨神経刺激療法(SNM)も積極的に行っていく予定です。
※仙骨神経刺激療法(SNM)
排便に関する神経に持続的に電気刺激を与え、便失禁の症状改善を図る方法です。2014年4月から日本でも保険診療下で行うことができるようになりました。

2.Endoscopic
大腸内視鏡検査、内視鏡的処置(EMR、ESD)などを行っております。当院での内視鏡は、痛くなくそして何度でも受けたくなる様な形です。

3.Laparoscopic surgery
内視鏡的治療で不十分であった場合や、早期・進行大腸癌に対して腹腔鏡下大腸切除を行っております。また、下部直腸がんに対しては、なるべく人工肛門にならない様、ISR(内括約筋切除術)も行っており、患者さまの希望に考慮した治療指針を決定しております。内視鏡外科学会技術認定の資格も有しており、安全に施行されております。

4.IBD
CAP療法や、免疫抑制剤などの内科的治療から、外科的手術、またクローン病の肛門病変についても、すべてに積極的に対応しております。潰瘍性大腸炎に対しては、大腸全摘、回腸肛門吻合を積極的に行っております。

5.Chemotherapy
進行再発大腸癌に対して、術前・術後化学療法を積極的に行っております。外来化学療法室を完備しており、認定看護師を配置し、患者さまには安心、安全、快適に施行して頂けるように対応しております。

健康スポーツ部は、1995年に創設した科で、一般スポーツ愛好者からトップアスリートまで、スポーツに関わる幅広い診療を行っています。

1. スポーツ障害・外傷の診断と治療
2. フィットネスクラブを軸とした健康スポーツ事業
3 .スポーツ現場での活動

1.スポーツ整形外科
膝、肩、肘、足関節の関節鏡手術を中心に、年間を通して多くの手術、リハビリ治療を行っています。
手術は、膝関節では前十字靭帯損傷、半月損傷、膝蓋骨脱臼、肩関節では肩関節脱臼、腱板損傷、肘では離断性骨軟骨炎、関節ねずみ、足関節で脱臼骨折、衝突性外骨腫、関節ねずみなどが症例の多い手術です。特に前十字靭帯再建術では、全国でも有数の症例数となっています。
スポーツ整形では、練習・試合スケジュールに合わせた復帰スケジュールやコンディショニングが必要となり、手術・リハビリテーション・アスレティック・リハまで含めた包括したコントロールが不可欠です。
症例によって異なる環境と条件にあった治療を行うために、我々の目指すスポーツ整形は、単純に早期競技復帰を目指すのではなく、「価値ある競技復帰」に重点をおいています。

2.健康スポーツ事業
ライフメディカルフィットネスを中心に、地域の健康づくりからトップアスリートのトレーニングまで、多岐に渡る健康づくりのサポートを行っています。様々なニーズに答えるために、従来の保険診療の制約にとらわれない形で診療を行っています。「病気にならない体づくり」、「運動による疾患の克服」、「アスリートの競技力向上」を3つの基本コンセプトとしています。

3.スポーツ現場での活動
ラグビー、サッカー、スケート競技、体操、バレーボールなど数多くの遠征や試合への派遣・帯同を行っています。
現場でのケガへの対処、スポーツ障害予防への啓蒙活動、競技力向上へのサポートなどスポーツ整形外科としては、深い知識を要求される応用分野です。
常に3−5人のスタッフと共に、スポーツ障害・外傷へのご相談に応じています。

スポーツ整形外科部長　福田 潤医師　ホームページ

健康スポーツセンター

SPORTS

ROBOT

ロボット手術センター

保険収載されたと同時にロボット支援下手術を開始しております。
2022年10月現在ロボット手術執刀資格を有する6名(泌尿器科3名・消化器外科3名)、ロボット手術指導資格を有する2名で、「患者様が安全に、そして身体に負担の少ない治療を受けられる」ことを目指して、日々手術をアップデートしております。

泌尿器科

高齢化社会が進む現在の日本では、死因の第一位は悪性新生物(いわゆる癌)です。現在、前立腺癌は日本人男性の癌の中で罹患数は第4位ですが、今後も増え続け、いずれは第一位になるとも言われております。

早期の前立腺癌は自覚症状がありません。多くは健康診断などで行われるPSA検査を契機に診断されます。癌や炎症により前立腺組織が壊れるとPSAが血液中に漏れ出し、増加します。血液検査でPSA値を測定することで、前立腺癌の可能性を推定します。

前立腺針生検

年齢、PSA値、直腸診、MRI検査などから総合的に判断し、前立腺癌が疑われる場合、前立腺針生検を行います。前立腺癌の診断となった場合、CT　骨シンチなどを施行し転移の有無を判断します。

手術療法は主に転移のない限局性前立腺癌に適応となります。

手術の方法として、当院ではロボット支援下前立腺全摘除術手術を施行しています。

ロボット支援下前立腺全摘除術

腹部に小さな穴を数カ所開け、炭酸ガスで腹部を膨らませます。腹腔鏡手術では人間がカメラ、器具を持って手術行いますが、ロボット手術ではそれらを手術用ロボット(ダビンチ)が持ち、その手術用ロボットを人間が遠隔操作することで手術を行います。ロボットがカメラなどを持つことで、微細な手の震えが制御され、拡大画面を見ながらより精密な手術ができます。開腹手術と同等の癌の根治性が期待でき、創が小さく、腹腔鏡手術と比較しても術後の回復が早いと言われております。

当院でロボット支援下前立腺全摘除術を導入したのが、2019年 8月になります。導入前と比べて、出血量の減少、入院期間の短縮(最近では術後8～9日で退院)が得られており低侵襲の治療が可能となっています。手術件数として　2019年度　14件　2020年度　24件　2021年度33件と増加しています。

前立腺癌は早期に治療すれば完治できる病気です。当院ではロボット手術を導入しており、最先端の治療が提供できます。PSA検査で異常値を認めた場合、気軽に当院まで御連絡頂ければ幸いです。

大内 秀紀 泌尿器科
ロボット手術センター　センター長
daVinci certificate

外科

大腸癌は消化管の最後に位置する大腸にできる癌のことをいい、前半の結腸、後半の直腸に分かれております。直腸は肛門により近い部分の大腸であり、解剖学的にも骨盤の深部に位置しております。直腸周囲には排尿機能、性機能をつかさどる下腹神経、骨盤神経叢が存在し、手術に際しては可能な限り神経の温存が求められます。そのため直腸癌の手術は剥離操作が難しく、難易度が高いといわれております。

直腸癌手術は開腹手術が標準治療となっていますが、鏡視下手術の台頭により拡大し効果や操作性が認められ、年々増加傾向にあります。さらにロボットという新しい技術が増えたことで、より安定した手技が行えるようになりました。

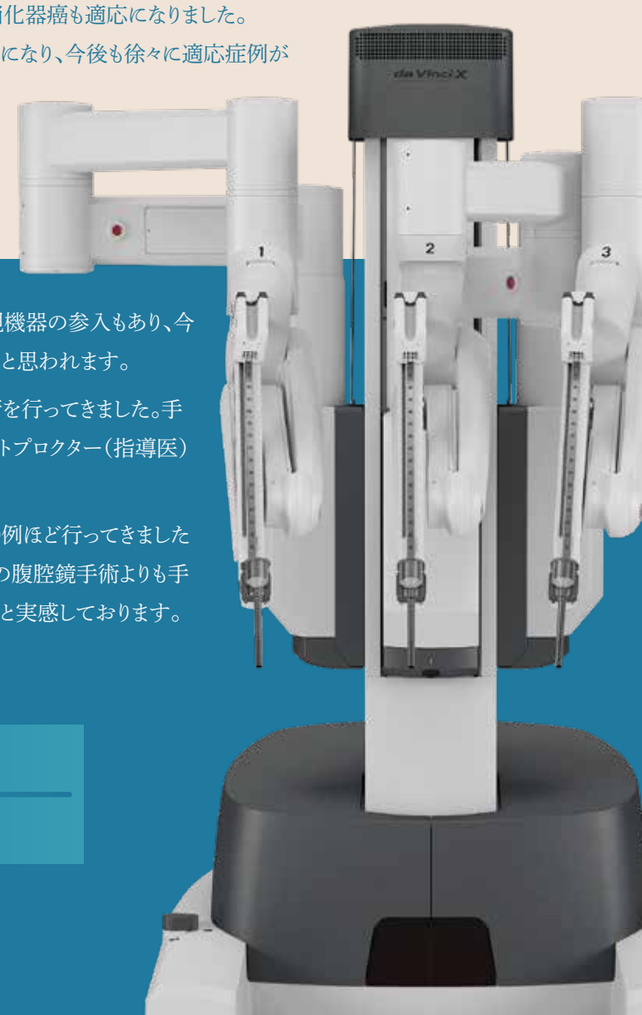
五代 天偉 外科
ロボット手術センター　副センター長
ロボット支援手術　認定プロクター

ロボット手術とはロボットが勝手に動いて手術するわけではありません。患者側にはペイシェントカートといわれるロボットアームを配置し、外科医はコンソールという操作盤でアームを操作して手術を行います。

その特徴として従来の腹腔鏡では鉗子の方向が一方向のみでありましたが、ロボットでは多関節により360度鉗子が自由に動くため操作性が向上しております。そして腹腔鏡では術者と鉗子の動きが1:1対応になっていますが、ロボットではモーションスケールにより術者の動きが何分の1にも調整でき、また手振れ防止機能も備わっているため、より緻密な動きが可能となっております。以上の点から従来大変であった骨盤深部での剥離操作がより安定し、術後の臓器障害を抑え、また肛門温存の可能性が高まると考えられております。　本邦では2012年に前立腺手術において保険収載され、2017年に食道がん、胃癌、直腸癌など消化器癌も適応になりました。

2022年4月には結腸癌も適応になり、今後も徐々に適応症例が広まっていくと思われます

現在当院で用いているロボット支援下機器はdaVinci(ダビンチ)というものを使用しております



が、hinotori(ヒノトリ)など新規機器の参入もあり、今後は多くの種類のロボット支援下機器が出現してくると思われます。

当院では2019年5月にダビンチを導入し、現在までに100例ほど手術を行ってきました。手術を担うのは学会認定された技術認定医であり、経験豊富なロボットプロクター(指導医)の資格も取得しておりますので、安心してお任せください。

実際私個人がロボット手術を50例ほど行ってきましたが、3D画質や操作性から従来の腹腔鏡手術よりも手術の難易度はすごく楽になったと実感しております。

鈴木 紳祐 外科
ロボット手術センター
ロボット支援手術　認定プロクター

総合診療科

病気ではなく、病人を診ることを第一と考え日々診療を行っております。当科は様々な訴えや症状で来院される方が多く、適切に診断をつけるため、一人一人にできるだけ時間をかけて診療にあたるようにしています。専門性が高いと判断すれば各専門科とともに治療を行っております。特に消化器内科とは密に連携し、特徴的なものとしては、肝膿瘍に対する動注療法や早期胃がんに対するESD治療、巨大な総胆管結石に対するEPLBDを行い、いずれも良好な成績が得られています。

研修期間は不明熱を中心に感染症・自己免疫疾患・悪性腫瘍・内分泌疾患血液疾患等多岐にわたり診断・治療を行っていますがまずは患者さんの生活背景を把握することから始めます。問診・診察検査結果から指導医とともに病態生理に基づき診断治療にあたります。医師として必要な力を養うために、医学的知識の総整理として以下の検査・手技を経験してもらいます。

●上部内視鏡検査 ●下部内視鏡検査 ●ERCP ●PTGBD/PTCD ●腹部血管造影検査 ●腹部超音波検査 ●脊髄穿刺
●髄液検査 ●関節穿刺 ●胸水・腹水穿刺 ●CV挿入

麻酔科

日本麻酔科学会麻酔科認定病院として2020年年度は4,209件、麻酔科指導医が5名、麻酔科専門医が2名と、指導体制が充実しています。

ICUで重症患者管理を学ぶことができます。研修期間中に気管挿管、脊髄くも膜下麻酔、観血的動脈圧ライン、中心静脈カテーテル等の手技を学ぶことができます。1件の症例に何人もの研修医がつくことはなく、習熟効果は高いです。

藤沢湘南台病院で、たのしい麻酔科研修をおくりましょう。

消化器内科

日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設として上下部内視鏡、ERCP（検査及び処置）、腹部血管造影、肝がん局所治療、食道静脈瘤治療、IBD、肝炎の診断治療を行っております。ダブルバルーン内視鏡、カプセル内視鏡、バーチャルコロノスコピーなどを導入しております。

研修期間に消化器病疾患の診療に不可欠な病態把握能力を養い、診断・治療技術を習得します。また、緊急を要する急性腹症や吐血・下血疾患、消化器悪性疾患などを含め、消化器・肝・胆・膵の急性期疾患から慢性期疾患まで幅広い疾患を経験できます。

救急科

日本救急学会専門医施設に認定されています。主として藤沢市北部および隣接している横浜市西部、大和市、綾瀬市からの患者さまを受け入れております。3名の専任医師が他科と連携しながら地域を支えています。

ER方式を取り入れ、一次、二次救急を基本に診療しており、脳卒中・呼吸器・循環器・消化器・感染症疾患さらには敗血症等の重症患者の入院診療も行っています。専門性を求められる疾患に関しては各科とともに診療にあたります。また、関連医療機関とも密接に連携を行っています。救急部の役割は大きくなります。充実した診療をめざします。三次救急やより高度な集中治療学を研鑽したいときには、短期留学制度等、初期研修医2年次で横浜医療センター救命救急センターでの研修もできます。

循環器内科

日本循環器学会指定、循環器研修関連施設として心カテ、PCIによる治療（橈骨動脈アプローチ）、ペースメーカー植え込み、下大動脈フィルター挿入、IABPなどを行っております。研修期間に心エコー、トレッドミル、ホルター心電図等各種検査を経験し循環器疾患診断のプロセスを理解し循環器疾患治療薬の使用方法尾を習得します。また、指導医のもとで実際にスワンガンツカテーテル挿入なども経験します。急性期の治療だけでなく、予防からリハビリまで患者中心の診療をしています。

整形外科

部位別の班編成でないため、脊椎・人工関節・骨折部位に日頃から幅広く携わることができます、そのため外来で診察した患者さまを指導医のもと手術～退院まで自分の目で診ることができ「疾患」としてではなく、一人の患者さまと向き合うことができます。スポーツ整形の手術も年間通じて症例が充実していて、手術にも1週間に1日以上入るスケジュールが組まれているため自分から勉強する姿勢さえあれば申し分ない研修を送ることができます。

外科

痔核や鼠径ヘルニア、自然気胸などの一般的疾患から胃がん、大腸がん、肺がんなどの専門的疾患まで多種多様です。また、ターミナルケアを必要とする患者さんも多く入院しています。1年間の手術症例数は1,000件を超えています。急性虫垂炎や急性胆嚢炎、絞扼性イレウスなどの外科的緊急疾患も多く手術総数の約20%が緊急手術です。1年目は外科的思考をみにつけ周術期管理と外科的処置の研修を集中的に行います。

2年目に選択すると、実際に術者となって手術や術後管理を行い、主治医としての研修が可能です。また、学会に参加したり症例発表も経験してもらいます。睡眠時間が十分に取れないくらい毎日忙しいですが、厳しくても楽しい雰囲気の中で実りある研修を心がけています。

スポーツ整形外科

健康スポーツ部は、1995年に創設した科で、一般スポーツ愛好者からトップアスリートまで、スポーツに関わる幅広い診療を行っています。ここでは、以下の3つを柱としています。

1.スポーツ障害・外傷の診断と治療　2.フィットネスクラブを軸とした健康スポーツ事業　3.スポーツ現場での活動

オリンピックへの帯同、ラグビー、サッカー、スケート競技、バレーボール、体操など数多くの遠征や試合への派遣・帯同を行っています。現場でのケガへの対応、スポーツ障害予防への啓蒙活動、競技力向上へのサポートなど、スポーツ整形外科としては深い知識を要求される応用分野です。

PROGRAM

研修プログラム

定員

7名	+横浜市立大学のプログラムから たすき掛け研修医1年次2名、2年次2名受け入れ

プログラム

※一例です

4週でローテートします。 研修医1人ことにローテート順は異なります

1年次	24週 内科	12週 救急科	8週 選択科	8週 麻酔科 ICUを含む			
2年次	24週 選択科	4週 産婦人科	4週 小児科	4週 外科	4週 精神科	4週 地域医療	8週 選択科

選択科は、原則40週選択です
内科24週の間に新患外来を週1回を目安に実施します
救急部門は12週とします。平均3～5回/月の当直を行います
必修科目の外科、小児科、産婦人科および精神科を4週および麻酔科（ICU含む）を8週とします

地域医療施設	呉クリニック・高畑耳鼻咽喉科医院・野村クリニック 在宅クリニック・ココロまち診療所・はせがわ内科クリニック
選択科	藤沢湘南台病院・藤沢市民病院（小児科・産婦人科・呼吸器内科）・藤沢病院（精神科） 横浜医療センター（救急科・小児科・産婦人科・腎臓内科・脳神経内科・ 膠原病リウマチ内科・呼吸器内科） 藤沢ケアセンター（保健医療）・藤沢市保健所（保健医療）

研修医の配置分担

1年次 内科・救急科・外科・麻酔科指導者それぞれ1名に対して1名の研修医がつき、プログラムに基づく指導分野の履修を行います

2年次 地域医療は、協力施設の研修実施責任者と相談しながら有効適切な時期に研修を行います
選択科は、研修医の希望により選択科目より1科目4週以上の単位で選択し合計40週の研修を行います

研修の記録および評価方法

研修医による自己評価、指導医による研修医の評価は大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）が運営するオンライン研修卒後臨床研修システム（EPOC）を使用します

研修期間中はタブレット端末を貸与いたします（Microsoft Surfce等）
院内Wifi環境整備済み

UMIN 大学病院医療情報ネットワーク

研修医の出身大学

札幌医科大学/旭川医科大学/北海道大学/秋田大学/山形大学/福島県立医科大学/獨協医科大学/群馬大学/東京医科大学/東京医科歯科大学/東邦大学/帝京大学/日本大学/日本医科大学/昭和大学/北里大学/聖マリアンナ医科大学/横浜市立大学/東海大学/埼玉医科大学/浜松医科大学/山梨大学/信州大学/三重大学/大阪市立大学/大阪医科大学/金沢大学/金沢医科大学/富山大学/福井大学/広島大学/山口大学/鳥取大学/香川大学/徳島大学/高知大学/愛媛大学/産業医科大学/九州大学/久留米大学/佐賀大学/長崎大学/熊本大学/宮崎大学/鹿児島大学/琉球大学/国立センメルワイス大学

※ 2001年から2022年までの研修医の出身大学を所在都道府県別にまとめたものです

研修終了後の進路

がん研有明病院/北里大学病院/九州大学/慶應義塾大学病院/国際医療福祉大学熱海病院/国際成育医療研究センター/産業医科大学病院/順天堂大学医学部附属順天堂医院/新東京病院/聖マリアンナ医科大学病院/聖隷横浜病院/帝京大学医学部附属病院/東京医科大学病院/東京慈恵会医科大学附属病院/東京女子医科大学東医療センター/南風病院/新潟大学/日本医科大学付属病院/藤沢市民病院/横須賀共済病院/横浜医療センター/横浜市立大学附属市民総合医療センター/横浜市立大学医学部附属病院/藤沢湘南台病院等
専攻医プログラム：藤沢湘南台病院 総合診療研修プログラムのほか基幹病院との連携プログラム多数あり
（北里大学病院/国際医療福祉大学熱海病院/藤沢市民病院/横浜医療センター/横浜市立大学附属市民総合医療センター）

協力病院

横浜市立大学
附属病院

横浜市立大学
市民総合医療センター病院

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター

藤沢市民病院

藤沢病院

VOICE

研修医の声

K･I先生
金沢大学卒
たすきがけ1年目コース
30年度生

私は横浜市立大学のたすき掛けコースにて1年間藤沢湘南台病院で研修させて頂きました。
地域研修先として当院を選ばせていただいたのは、common diseaseを中心に多くの症例を経験できると聞いていたためです。
1年間で消化器内科、循環器内科、外科、麻酔科、救急科と回らせて頂き、多くの経験をさせて頂きました。
仕事内容として、外来、救急搬送及びwalk-in対応、入院症例に関してはそのまま主治医としても病棟管理を行わせていただきました。
当院を受診される患者さんは比較的軽症から中等症例が多かったですが、症例数が多く、中には緊急性の高い症例も含まれていたこともあり、重症度を判断し、それに応じた対応の必要性を肌で感じました。
診療の進め方としては基本的には自分で問診・診察を行った後、必要に応じた検査・治療まで決めさせていただきましたが、困った時にはいつでも相談に乗って下さり、また、こちらから相談しなかった場合もこっそり診療内容をチェックしていただいていたりと、温かみのある上級医の先生方のもと、のびのびと働くことができたと思います。この1年で経験してうまくいったこと、うまくいかなかったことをそれぞれ胸に刻んで今後の診療につなげていきたいと考えています。
勤務中は多忙な時もありましたが、オンオフがハッキリしており、仕事が終わった平日の夜や週末には体を休めることが出来ました。同期とバーベキューや飲み会をしたことも大きな思い出となりました。
最後になりますが、各診療科の先生方及びスタッフの方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

S.H先生
産業医科大卒
令和3年度修了生

藤沢湘南台病院での2年間の研修医生活を終えるにあたって、ふと思うことは、また研修病院を自由に選ぶ機会があっても、この病院を希望したいと思えるような研修生活だったことです。
もともと整形外科に興味があり、整形外科に強いという理由で当院での研修を希望しました。国家試験合格後、右も左もわからない状態で研修医として働き始めた時、出来ないことや戸惑うことはたくさんありました。
しかし、指導医や先輩の研修医の先生方、コメディカルや事務のスタッフの方など、院内の全員のサポートがあり、1つ1つ乗り越えてゆき、無事に2年間の研修医生活を終えられることができたと思います。
大学病院の様に規模が大き過ぎないからこそ、診療科同士の距離も近く、いつでも相談できる体制が整っており、国家試験では学ぶことのできなかった知識もつけることができた様に思います。そして何よりも医学的知識以上に、そういった人たちと触れ合う中で、自分もいつかはそのような存在になれるようにと、人間として成長できたのではないかと思っております。人事の入れ替わりも多いはずですが、そういった環境をずっと維持できるのは、間違いなく病院としての方針がしっかりしているからなのではないかと思います。
私は3年目から整形外科医として歩んでいくつもりですが、藤沢湘南台病院で学んだことを今後の医師生活の基盤として、さらに成長できるように、精進していきたいと思います。
2年間という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

Y･M先生
山口大学卒
29年度生

藤沢湘南台病院での研修生活を始め、早くも8ヶ月が過ぎようとしている事に驚きを隠せません。
学生でこの文章を読んでいる皆さんの大半は、マッチングに向けた病院探しの参考に読んでいることだと思いますが、私は、整形外科志望であり、スタッフ、症例が充実していること、研修医部屋があること、同期がたすきかけも含めると10人程度であることを基準にマッチング希望を提出しました。
実際に研修を始めてみましたが、まず驚いたことは多くの手技を経験出来ることです。ここまで内科6ヶ月、救急科2ヶ月と志望の科ではない科を回らせて頂いており、整形外科や外科以外は当院はスタッフも多くなく、入職前はそこまで多くの症例に触れることもないのではないかと考えていました。
しかし、実際にはスタッフの数が多すぎないが故、研修医と上級医の先生方の距離も近く、一度手技を経験してみろと機会を与えてくださることが非常に多いように感じます。内科では地域に根ざした市中病院らしく、common diseaseを数多く経験出来、救急科では上級医の先生に見守って頂きながら、first touchから入院加療となった場合には主治医として治療方針を考えるところまで経験出来ます。
人それぞれの考え方がありますが、初期研修医の時期は最先端の医療というより、一般的な症例の対応を学び、多くの手技を経験したいと考えていた私にとっては充実した毎日を送れています。
また、当直明けを配慮して頂ける科も多く、有給や夏期休暇も積極的に取らせて頂けることからも、オン、オフがはっきり出来、働きやすい環境だと感じています。
病院探しに悩んでいる学生向けにと長々書きましたが、”百聞は一見にしかず”実際に病院見学に来て、アットホームな当院の雰囲気を味わって見てください。お会いできること楽しみにしています。

and More

総合診療 専門研修プログラム

少子高齢化が進み医療の効率化が求められている中、多くの併存疾患を抱える患者さまや、様々な家族・社会背景の患者さまに対して全人的な診療を行うために、行政、家庭医、訪問看護、介護施設などとの連携をしながら総合的な視点から患者さま・ご家族さまとより深く関わり、患者支援をマネジメントできる医師を育成するプログラムです。

定員・期間

定員：原則として1学年2名
期間：3年間

プログラムを展開する場・医療施設の地域背景・特長

本プログラムは藤沢湘南台病院を専門研修基幹研修施設として、連携施設での学外研修（専門研修連携施設研修）とを組み合わせた3年間のプログラムです。
当院は高度な専門医療や救急患者さまに対応する急性期一般病棟をはじめ、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟と様々な機能を有しており地域のニーズを基板として急性期から慢性期の状態まで、高い医療水準をもって、ひとつの病院で対応することができます。
さらに連携施設と協力して包括的かつ多様な医療サービス（在宅医療、緩和ケア、高齢者ケアなど）を柔軟に提供し、地域における予防医療・健康増進活動などを通して地域全体の健康向上に貢献できる医師を養成する事が特徴です。

研修期間を通じて行われる勉強会、カンファレンス等の教育機会

日常の診療においては、可能な限り毎日、指導医、上級医のフィードバックを受けます。
また定期的な病棟・外来症例カンファレンスを行い、患者の病態、治療方針を共有します。
チェックリストを作成し医師として出来なければいけない基本手技、知らなければいけない知識を確認しながら、まだ習得していない経験や知識を補
い
自らの研修の進歩状況を確
認します。
ポートフォリオ勉強会は適宜
実施します。
専門研修プログラム管理委員
会はポート
フォリオの全体の発表会を年
に一度
開催します。

処遇・勤務条件

雇用形態	常勤職員(医師)
給与	1年次　基本手当　月額約30万円　年収約500万円(総支給額) 2年次　基本手当　月額約32万円　年収約525万円(総支給額) ※　当直手当　(1年次 14,000円/回　2年次 18,000円/回)、日直手当支給 ※　時間外手当あり
勤務時間	午前08:30　～　午後05:00　(時間外勤務あり)
当直	午後05:00　～　午前09:00　(平日および日祝) 午後01:00　～　午前09:00　(土曜) 午前08:30　～　午後05:00　(日祝の日直) 初期医療、救急医療における臨床能力を養うため必ず当直業務を行っていただきます 当直の指導・責任は当直医が担当します 1年次研修医は必ず当直医とともに診療にあたります 2年次研修医は自分で判断し診断治療を行いますが、判断が困難な場合や、入院手術が必要と考えられる場合は当直医に連絡して判断を求めます
休暇	有給休暇(1年次 10日、2年次 15日)・夏季休暇・年末年始休暇
保険	健康保険・厚生年金・厚生年金基金・雇用保険・労働災害保険
健康診断	年2回
医師賠償保険	病院において加入します 個人でも必ず加入が必要です(藤沢市医師会から補助があります)
外部研修活動	学会、研究会等への参加が可能です(参加費用が支給されます)

職員寮

MANSION

徒歩圏内にワンルームまたは1Kタイプのマンションを借り上げ社宅として契約しており、研修医寮として提供しています。(寮費 35,000円/月)
またご自身で賃貸契約をされる場合には 20,000円(月額)の住宅手当が支給されます

Contact us

病院実習・見学 歓迎します

実習、見学を受け入れています。
研修医の日常を垣間見てみませんか？
病院の空気を感じ、研修医の生の声を聞いてください。

- **来院**　一日の予定の確認と研修プログラム、待遇等の説明をします。
- **モーニングカンファ**　朝8:30～時間外の入院症例を中心に研修医がプレゼンして、治療計画について議論、指導してもらいます。実習生はプレゼンしている研修医の間近に座って見れます。
- **勉強会**　先輩医師による勉強会を実施します。
日程によってはリハビリテーション科等との合同カンファを実施する場合もあります。
- **手術見学**　複数の手術室で様々な科が同時並行で行っています。
興味のある科の手術を間近で見学することもできます。
※ ご希望に添えない場合もあります。
- **病院施設の見学**　病院の施設を見学していただきます。
急性期医療の最先端の現場に加え、慢性期の施設や健診施設などもご希望に応じて見学可能です。
- **研修医との雑談**　実習をおこなった診療科以外の研修医の話しを聞いたり実習中に気軽に聞けなかったこともここで色々と話せます。
- **検査見学**　コメディカル、看護師さんとも気軽にわからないことは質問しましょう。病院全体の雰囲気を是非感じてください。
- **実習終了**　時間があれば、研修医中心に食事会で愉しんでいただくこともしばしばあります。

※ 実施内容が変更されたり、実施順が異なる場合があります。

お問い合わせ、お申し込みは
藤沢湘南台病院 臨床研修医担当まで
0466-44-1451